

Q&A

クローン病術後の貧血

桑 原 隆 一 池 内 浩 基¹⁾

【問 題】

症例：10 歳代，女性。

主訴：クローン病，貧血。

既往歴：クローン病。

内服歴：成分栄養剤，酢酸亜鉛水和物。

生活歴：喫煙歴，飲酒歴はなし。

家族歴：特記すべきことなし。

現病歴：10 歳代前半より下痢傾向であった。19 歳時に腹痛，嘔気，嘔吐が出現した。虫垂炎の疑いで前医を受診し，保存的加療にて経過観察となっていた。約 1 カ月後に腹痛の再燃を認めた。大腸内視鏡検査でバウヒン弁のすぐ口側の小腸に縦走潰瘍，敷石像，内視鏡通過不可の狭窄を認め，小腸型クローン病と診断された。手術目的で当科紹介となり腹腔鏡補助下回盲部切除術を施行した。術後経過は良好であったが，術後約 1 週間時点の採血にて Hb の低下（10.5 → 7.2g/dl）を認め

た。腹腔内出血の鑑別のため造影 CT を施行したが明らかな出血源は認めなかった。その後，上部消化管内視鏡検査を施行した。

現症：BT 36.5℃，その他 vital sign 異常なし，腹部は平坦，軟で明らかな腹膜刺激症状はなし。便回数は 3 行/日でやや下痢気味である。明らかな下血，黒色便は認めていない。

手術時所見：全小腸は 570cm で切除小腸は 30cm であった。明らかな残存病変は認めていない。吻合は，手縫いで端々の 2 層吻合を行った。

血液検査所見（術後 1 週間）：WBC：4900/ μ l，RBC：258 $\times 10^4$ / μ l，Hb：7.2g/dl，Plt：29.6 $\times 10^4$ / μ l，TP：5.4g/dl，Alb：2.8g/dl，BUN：7.0mg/dl，Cr：0.58mg/dl，AST：40IU/l，ALT：76IU/l，ALP：117IU/l，AMY：65U/l，CRP：6.36mg/dl。

Figure 1 に上部消化管内視鏡検査所見を示す。

診断は？

1) 兵庫医科大学消化器外科学講座炎症性腸疾患外科

Postoperative anemia in Crohn's disease

Ryuichi KUWAHARA and Hiroki IKEUCHI¹⁾

1) Division of Inflammatory Bowel Disease Surgery, Department of Gastroenterological Surgery, Hyogo Medical University

Corresponding author：桑原 隆一 (ri-kuwahara@hyo-med.ac.jp)

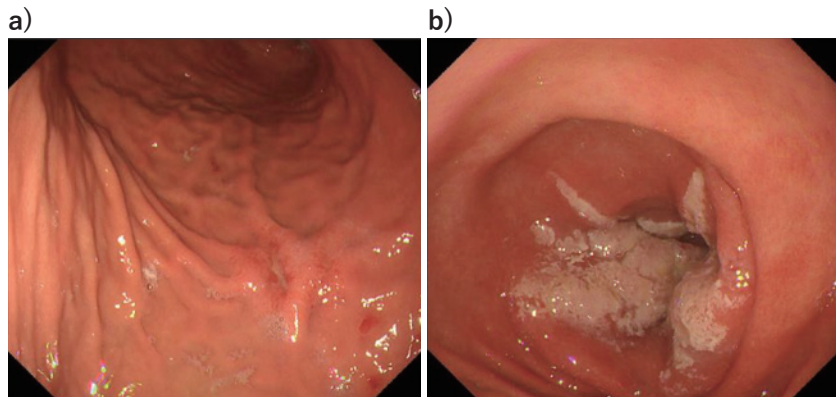


Figure 1. 上部消化管内視鏡検査 a) 胃体部, b) 幽門部. 胃体部にかけて潰瘍形成, 幽門部に白苔付着などをともなう特徴的な胃粘膜病変を認める.